

循環器内科

1) 診療科紹介

康生会武田病院は、JR 京都駅前に位置し京都の中核病院として機能しています。当院には循環器センター、不整脈治療センター、心臓血管外科があり、各々特殊性を持ちながら連携し治療を行っております。特に循環器内科（循環器センター）は虚血性心疾患の治療を使命とし、最新の診断と治療技術を積極的に取り入れると同時に、患者様本位の思いやりのある医療を心がけております。

学会活動にも重点をおいており、日本循環器学会総会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション学会、日本心血管カテーテル治療学会などの国内学会および海外の国際学会発表も活発に行っています。

若手循環器医師の教育については、不整脈治療センターとも連携し、循環器内科医師としての経験と知識を得られるように考えております（不整脈治療センターとのローテーションも可能）。特にインターベンション手技や知識の習得は指導医のもと早期より積極的に取り入れています。また、院外の講習会・学会等の参加も積極的行っています。

① 狭心症治療

院内に 3 つのカテーテル検査室を有し、バルーン拡張術、ステント留置術、ロータブレードによる治療が可能です。カテーテルの検査や治療は、従来の下肢からのアプローチのみならず、手首や肘からのアプローチを積極的行っており検査室から歩いて病室に帰っていただくことも可能になっています。経皮的冠動脈形成術 (PCI) の症例数は、毎年年間 400 例以上で京都府下においても有数の規模となっています。

② 狭心症の診断

マルチスライス (64 列) CT や高性能 MRI、心臓糖代謝をイメージングできる最新の PET-CT も完備し各々の検査を用いることにより、多角的な診断や病態評価を行っています。

③ 急性期の虚血性心疾患

当院循環器センターへは年間 40-50 症例の急性心筋梗塞症例が救急受診しますが、急性期の循環器疾患の治療については 24 時間対応可能な診療体制をとっており、心臓血管外科、不整脈治療センターとも連携をとって治療にあたっています。急性冠症候群には積極的に経皮的冠動脈形成術 (PCI) を行い加療しています。重症例では、大動脈内バルーンポンピング (IABP) や経皮的心肺補助法 (PCPS) などの補助循環療法を用いた治療を行っています。

④ 心不全、心臓弁膜症や心筋症など

これらの疾患では、狭心症の診断と同様に心エコー、PET-CT、64 列 MDCT、MRI などの検査を用いて多角的な診断や病態評価を行い、その診断や病態評価をもとに的確な治療を行っています。

⑤ 慢性閉塞性下肢動脈硬化・腎動脈狭窄症

慢性閉塞性下肢動脈硬化・腎動脈狭窄症は近年罹患率が増加しており、末梢血管エコーや 64 列 MDCT にて病態を正確に診断し、治療方針を迅速に決定します。心臓血管外科とも連携し、インターベンション治療も積極的に行っております。

2) 関連学会

日本循環器学会 <http://www.j-circ.or.jp/>

日本血管インターベンション学会 <http://www.jsichp.org/>

日本心血管カテーテル治療学会 <http://www.jacct.com/>

日本核医学学会 <http://www.jsnm.org/>

日本心臓核医学学会 <http://www.jsnc.org/>

3) 施設認定・指導医・専門医

日本循環器学会研修施設 研修責任者氏名：田巻俊一

田巻俊一 循環器学会専門医、内科認定医

橋本哲男 循環器学会専門医、内科認定医

松本雄賀 循環器学会専門医、内科認定医

木下法之 循環器学会専門医、内科認定医、日本心血管カテーテル治療学会認定医、日本インターベンション学会認定医

中村玲雄 循環器学会専門医、内科認定医、
日本インターベンション学会認定医

宮井伸幸 循環器学会専門医、内科認定医

山田健志 循環器内科医員

太田啓祐 循環器内科専攻医

4) 日本循環器学会専門医受験資格

① 内科系は認定内科医、外科系は外科学会認定医、小児科系は小児科学会認定医であること。

② 本学会会員であり、かつ通算して6年以上の会員歴を有すること。

③ 医師免許取得後、専門医試験日前日をもって満6年またはそれ以上の臨床研修歴を有すること。6年のうち、3年以上は日本循環器学会指定の研修施設で研修していること。平成16年以降に医師免許を取得したものは各認定医取得後、3年以上本学会指定の研修施設で研修していること。

5) 後期研修の目標

① 前期内科系コース（1年間）を終了して循環器疾患一般の診断・治療を的確に行う知識・手技を習得することができる。不整脈治療センターおよび心臓血管外科とも連携し循環器疾患の治療に当たることができる。

② 後期内科系コース（3年間）では循環器疾患についてより詳しい知識を習得し、診断・治療に必要な検査を自分でできるようになる。虚血性心疾患については経皮的冠動脈形成術の術者として治療できるようになる。認定内科医の資格を獲得する。不整脈治療センター・心臓血管外科にての研修も可能。

6) 目標達成のための戦略の特徴

- ① 5名の循環器学会専門医の指導を受けられる。
- ② 日本循環器学会専門医受験資格に必要な経験すべき循環器疾患について網羅できる。
- ③ インターベンションのみならず循環器一般の診断・治療に必要な手技を習得できる。

7) 年度ごとの研修

前期循環器内科系コース

1年次：循環器科専属だけでなく、不整脈治療センター・心臓血管外科へのローテートも可能である。

循環器疾患一般の診断・治療に必要な知識を習得することができる。基本的な手技(心電図、運動負荷、心エコー、MDCT 読影など)を習得する。経皮的冠動脈形成術については指導者とともにインターベンション手技や知識の習得に研鑽する。不整脈治療センターおよび心臓血管外科の医師と連携し循環器疾患の治療に当たる。地方会等への学会発表や論文執筆を行う。

後期循環器内科系コース

1年次：急性心筋梗塞・狭心症をはじめとする虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症などの患者を受け持ち主治医として治療にあたる(5-6名)。インターベンションについて指導者とともに手技や知識の習得に研鑽する。総会および地方会等への学会発表や論文執筆を積極的に行う。

不整脈治療センターとも連携し、ペースメーカー留置(ICD、CRTd 等も含め)、カテーテルアブレーション治療等の研鑽も可能。

2年次・3年次：さらに、インターベンション手技や知識の習得し、経皮的冠動脈形成術の術者として治療できるように研鑽する。学会活動については日本循環器学会総会、日本心臓病学会、日本心臓血管インターベンション学会、日本心臓血管カテーテル治療学会等での発表や論文執筆を積極的に行う。

8) 大学医局との関連

京都府立医科大学 循環器内科の関連施設です。

9) 将来の進路

- ① 武田病院グループの病院(当院を含む)でスタッフとして勤務する。
- ② 大学院へ進学する。
- ③ 関連病院にて勤務。(その他、希望に応じます。)

10) 研修の問い合わせ先

医療法人財団康生会 武田病院 臨床研修委員会
電子メール・アドレス： info@takedahp.or.jp